

旧奥谷宿舎オープニングセレモニー(Oct/21/2009)

島根大学旧奥谷宿舎の修復保存工事が竣工し、本日、秋晴れの好天のなか、多くのご来賓の皆さま方のご臨席のもと、こうして記念式典を迎えることができましたことは誠に慶ばしい限りでございます。

この建物は、1924年(大正13年)に、旧制松江高等学校の外国人教師のための宿舎として建設されたものでございます。

昭和24年に新制大学となってからは職員宿舎などに活用されましたが、平成9年からは老朽化のために使用しなくなり、その後一層傷みがひどくなったことから、平成18年には宿舎廃止を承認し、取り壊しを検討しておりました。

経営協議会、地域の方々から修復保存の声があがり、これを受けて保存を決定すると同時に登録有形文化財に登録の手続きを開始し、平成19年5月に登録されました。この間、元文化庁調査官で現岡山理科大学の江面教授には登録にあたって、また、修復にあたって多大のご指導を頂きましたことを、この場を借りてお礼申し上げます。

平成20年2月からは、島根大学支援基金の一部として、修復活用に向けた募金を開始し、この6月に整備事業に着手、本日竣工に至ったところでございます。

この建物の活用計画については、高安前理事を中心に、学外からの委員もご参画頂いて検討を重ねまして、この建物を単に本学の記念館という位置づけにとどめず、地域の観光資源として、また交流の場としても活用していこうというコンセプトがまとめられ今日に至ったものであります。この考え方に松江市様から支援のお申し出を頂き、松江市長様、松江市議会議長様のご理解を賜り、この事業に対して多大の援助をして頂いたことに厚くお礼申し上げます。

このほかにもこの事業に関わっていただき、ご援助を頂いた多くの方々に対して心よりお礼申し上げます。

この建物の活用方法としては、お手元のご案内にもありますように、①島根大学や前身校の歴史、宿舎に暮された外国人の先生方やそのゆかりの人々を顕彰する展示などを行うミュージアムとして、②ミニ公開講座や研修会などの教室として、そして③城下町歩き観光の拠点の一つとして市民や観光客が集う交流の場として活用していきたいと考えております。

この建物が松江の人々や観光客から愛される施設となるよう願って、そしてこの事業に

多くのご支援を賜った方々に対してお礼申し上げまして、竣工の挨拶といたします。